

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」 平成 27 年度第 3 回推進会議の概要について

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」の平成 27 年度第 3 回推進会議を、平成 28 年 3 月 24 日(木)に開催しました。

第 3 回推進会議には、7 名の委員の方全員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の山田 康彦氏にご出席いただきました。

なお、第 3 回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

敬称略、50 音順、カッコ書は役職

安藤 大作(三重県 P T A 連合会 顧問)
石川 正浩(サポーターいっちゅう 事務局次
長兼広報部長)
田尾 友児(三重県立紀南高等学校 学校運営
協議会 委員)
竹内 勇夫(伊勢市立小俣中学校 校長)
西岡 慶子(株式会社光機械製作所 代表取締
役社長)
藤田 曜久(三重県立相可高等学校 校長)
山田 忍(スクールカウンセラー)

ファシリテーター

山田 康彦(国立大学法人三重大学 教育学部
教授)

< 推進会議の進行概要 >

会議の大きな進行は以下のとおり

開会 9:30

- ・教育長あいさつ
- ・事務局による資料の概要説明
「平成 28 年度当初予算の概要・取組概要等について」

プロジェクトについての意見交換

- ・プロジェクトのこれまでの取組や成果等について意見交換を実施

閉会 11:30

(山口教育長あいさつ、資料の概要説明)

冒頭、山口教育長から委員の皆さんに以下のとおりあいさつしました。

○これまで 4 年間にわたり、当会議にご協力いただいたことに感謝申し上げます。

○最後の会議であり、これだけはという意見を是非とも頂戴したい。



その後、事務局より資料に基づき、「平成 28 年度当初予算の概要・取組概要等」について説明しました。

(プロジェクトの成果等についての意見交換)

続いて、山田教授の司会によりプロジェクトのこれまでの取組や成果について意見交換を行いました。

各委員からは、日頃の活動を通じて感じる課題や子どもの学力向上に向けた今後の展開等について、意見や提案をいただきました。

委員からの主な意見

子どもが学びたくなるような環境を作ることが重要である。そのためには、学校、制度・仕組み、放課後・課外、家庭の4つが変わることが必要である。但し、家庭には手が届きにくい。学校など手が届きやすいところから着手するのが現実的である。子どもにとっても目に見える形で変化が出てくる。

○学校が変わることについては、校長の見回りも必要だが、評価することが必要である。民間の教育機関の講師は、めあてや振り返り等の実施について、毎回チェックシートで評価されている。

○教員の人材育成について、研修で10%、OJTで10%しか変わらないと思っている。鍛えていくためには、何をどれだけやったのかの評価が必要である。



○どんな組織でも何よりトップが大事である。また、トップの方針どおりに実行されているのか、学校でいえば校長が思いを先生にどれだけ伝えられるかが勝負である。組織である以上PDCAを回すこと必要であるが、それは正のスパイラルにまわしていくことが必要である。

○グローバル化が進む中、価値観の違う人たちを認識し、それを尊重し、人を慮る力がある人でないとリーダーにはなっていけない。企業にとっては、リーダーシップとチームワークがないと存続していくことができない。



○学力とは何かを、時代の転換点にある今、もう一度考える必要がある。やらなければならないことがたくさんある中で、整理されずに時代がかわっていくことがあるので、教育の中で重点的に取り組まなければならないことを考える時期である。

○学力の向上については、どの都道府県でも課題を抱えている。グローバル教育は、英語教育だけではない。例えば相可高校の食物調理科に外国からの来客が多いが、食がコミュニケーションツールの一つとして働いている。こういった観点がグローバル教育には必要である。

○三重県にも教育研究所があってよいのではないか。三重の教育を情報発信していけば、人材も集まってくる。

○家庭の教育力がなくなっている今、保育所や幼稚園の先生が重要となる。保育所の充実はとても重要である。

○他県に比べ三重県では校長に決定権がなく、決定しても揺らいでいると感じる。

○力のあるベテランの先生が定年等でやめていくので、その英知を積極的に活用することが必要である。

○教育がすべての礎だと思う。地域の教育力が上がってくると地域力も上がり、県民力を上げることに繋がる。

○学校を支援するサポーターが集まらない。地域人材を活用できるよう人材バンクのようなものがあればよい。

○まずは、学校が安定した状態にあることが基本である。先生の心と身体に余裕のあることが大事で、それがあってこそよい授業や子どもへの対応ができる。

○全国学調の結果は、児童生徒数の少ない学校では一人の子どもの結果が全体に影響していることもあるので、学校規模の違いも考慮して対応しなくてはいけない。

○コミュニティ・スクールの制度を理解せずに校長がその導入に抵抗感を持っていることがある。制度を理解すればいろんな資源を活用できる。制度導入のメリットを伝えていくことが大切である。制度導入で一番喜ぶのは校長である。

○教育で一番大事なことは、子どもが次の社会を担う一人前の大人になっていくことである。そのために人とのつながり、コミュニティが必要である。昔は地域社会の中にコミュニティがあり、学校がなくても子どもは大人になっていったが、今は学校がコミュニティとして求められている。



○学校が地域の中のコミュニティの核として機能しているかが、地域・家庭・子どもにとって非常に重要である。特に学力との関係で、保育園も含めた幼小中一貫の中で、継続して学校と家庭とが繋がっていくことが重要である。

○全国学調の結果について、クラス懇談会などで先生と保護者の間で丁寧に共有することが必要である。

○教育で一番大事なことは、子どもが次の社会を担う一人前の大人になっていくことである。そのために人とのつながり、コミュニティが必要である。昔は地域社会の中にコミュニティがあり、学校がなくても子どもは大人になっていったが、今は学校がコミュニティとして求められている。

○学校が地域の中のコミュニティの核として機能しているかが、地域・家庭・子どもにとって非常に重要である。特に学力との関係で、保育所も含めた幼小中一貫の中で、継続して学校と家庭とがつながっていくことが重要である。

○全国学調の結果について、クラス懇談会などで先生と保護者の間で丁寧に共有することが必要である。

○今、求められる学力は、我々がうけてきた基礎基本のみのものとは違い、資料を読み解きながら自分で表現するものである。現場では未だに全国学調を否定する風潮があるが、今、国が子どもたちに求めている学力は間違いなく全国学調に反映されていると考えている。(山口教育長)

○コミュニティ・スクールについては校長が一番助かることであり、そのあたりも啓発していく必要がある。(山口教育長)

○地域人材バンクについては、整備していく必要があると考えている。(山口教育長)

○本日いただいたご意見については、どのように実践していけるか考えていきたい。(山口教育長)

など

今後の対応

推進会議は今回で終了となりますが、委員から出された意見を今後の施策や事業に反映させていきます。